



中学校 特別活動2 (ア)

▶ 動画「学んでみよう!子どもの権利」>

活動名 お互いを認めあう関係づくり～「子どもの権利条約」を通して～

学習活動

指導上の留意点

事前の活動

学校生活において生徒たち自身が「周囲に迷惑をかけてしまったと思った経験」や「周囲との違いに戸惑った経験」などを出し合い、何が問題だったのかクラスで意見を出し合う。

- 匿名アンケート形式などで意見を出すことが苦手な生徒への配慮も行う。

導入

あなたは「子どもの権利条約」について知っていますか？

「子どもの権利条約」という成長途中の子どもならではの権利が保障されていることについて、生徒たちの意見を聞く。

日常生活や学校生活の中での具体例をいくつか挙げ、身近なことという認識をもてるよう意識する。

動画視聴

- 「お互いを認め合う」とはどういうことかなのか、動画を見て「子どもの権利条約」という視点から考える。
- [子どもの権利条約一覧](#)を参照し、各自の理解を深める。

- 出された意見を板書で共有する。1人1台端末を使う場合は、協働学習モード等で、他者の意見を参考にできるようにするとよい。

展開

- ※ワークシート①
- ワークシート①の内容を班で共有し合う。
 - 「子どもの権利条約」について、何が大事なのか班で話し合う。調べ学習も状況に応じて行う。

- どの意見も間違いではないことに触れつつ整理する。(生徒自身に整理させる。)その際、権利に関する優先順位をつけることが目的ではない旨を伝える。

終末

※ワークシート②

各自、自身がどのようなクラスや人間関係を作っていきたいか「行動宣言」をつくり、発表する。(それぞれの考えを尊重し合うことが大切なことに、再度触れる。)

- 知識としての「子どもの権利条約」ではなく、自分たちの生活の中であたりまえと認めていることが権利として保障されているものであることを伝える。

活動 事後の

帰りの会などで、自分の「行動宣言」を定期的に見直し、意識的に生活できるようにする。



板書計画例

ワークシート①の
意見を記述

- ◎ 「あたりまえ」と思っていた安心・安全な暮らしができることが、権利があるということなんだ!
- ◎ 世界には権利が守られていない同世代の子どもがいる。

お互いを認めあう関係づくりの
ために必要なことは？

「子どもの権利条約」ってなんだろう？
(きみたちの生活に関係している?)

「あたりまえ」の生活は、実はあたりまえじゃない。
私たち一人ひとりに「権利」があるんだから、みんなが安心・安全な生活を送れる環境を考えていく必要がある。人ごとじゃなくて、自分たち自身のこと。

ワークシート②の
内容を記述

- ◎ 自分の意見を表すことは「権利」だから、ちゃんと耳を傾けることが大事。
- ◎ お互いの権利を守りながら生活することが大切なんだ。